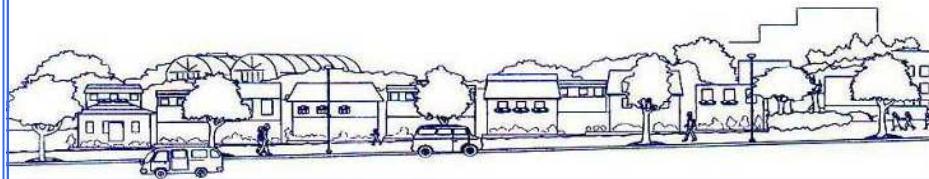


江戸川沿川 篠崎公園地区



NO.51

2016/2/16

江戸川区土木部
区画整理課連絡先：沿川整備係
TEL 5664-2616

事業計画決定に向けて進めていきます！

日頃から、区政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、2月5日（金）に開催された「第212回東京都都市計画審議会」において、「東京都都市計画事業上篠崎一丁目北部土地区画整理事業」の事業計画決定に対して提出された意見（意見書や口頭陳述など）の審査が行われました。審査の結果は不採択となり、縦覧した事業計画案の内容で認可申請手続きができることになりました。

なお、東京都知事の認可を受け、事業計画決定の公告をすることで事業が正式に開始されます。

事業計画決定の公告により、事業が開始されると、皆さまとお話しをさせていただく機会が増えていきますので、皆さまのご理解とご協力のほどよろしく申し上げます。

◎事業開始に向けた今後のスケジュール

- ・第212回東京都都市計画審議会（平成28年2月5日）



東京都都市計画事業上篠崎一丁目北部土地区画整理事業の事業計画決定に対して提出された意見の審査が行われ不採択となりました。

- ・事業の認可申請

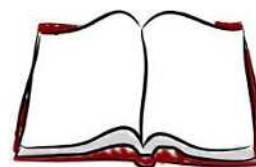


事業計画案で定めた「設計の概要」について東京都知事に認可申請します。

- ・東京都知事の認可



都知事から認可を受けます。



- ・事業計画決定の公告（平成28年3月予定）

区長は事業計画を決定し、公告を行います。
また、これにより事業が開始されます。

第2回上篠崎一丁目北部地区まちづくり準備会を開催しました

第2回上篠崎一丁目北部地区まちづくり準備会（以下、準備会という）

開催概要

- 日時：平成28年1月28日（木）午後7時から
- 場所：篠崎第二小学校
- 内容：江戸川区の防災対策について

当日の準備会では、江戸川区の防災対策について話し合いが行われ、様々なご意見をいただきました。準備会でいただいた意見や質問について紹介します。議事要旨については、別紙のとおりです。

◎江戸川区のゼロメートル地帯は、人の身体に例えると虚弱体質... 高規格堤防の整備は虚弱体質な江戸川区の体質改善！

質問：篠崎公園地区は区内でも地盤が高い場所で安全と聞いているが、なぜスーパー堤防を行うのですか。

回答：まちを人の体で例えると江戸川区は、海拔ゼロメートル地帯が7割なので虚弱体質と言えます。水害対策として数年に一度起きる大雨や洪水に耐えられる堤防を造り、治水機能を強化する対処療法があります。一方で、洪水による壊滅的な被害を重症化させない高規格堤防の整備は虚弱体質な江戸川区の体質改善であり、体質改善として高規格堤防の整備を出来るところからやるというのが江戸川区の考えです。

◎大地震が発生すると言われている中で、この計画で多くの人助けられると思う！

意見：東日本大震災の時、東京からの避難者は京葉道路を歩いており、消防団が千葉へ繋がる橋へさばいた経緯があります。人が集中すれば人があふれてしまうので、その時に高台で一息できる場所があれば安心できると思います。

30年以内に大地震が発生するという状態は切羽詰まっていると思います。この計画で多くの人助けられると思います。浅間神社の木は伐採になる部分もあるかもしれませんが、大きな見地として人の命が救えれば神様も喜ぶのではないかと思います。

◎一番身近なことが心配...

意見：災害対策は納得した部分もありますが、年齢や引越しのこともあるので、一番身近なことが心配です。

◎避難場所として、もっとアピールしたほうがよい！

意見：スーパー堤防で堤防が強くなるのは周知されていると思いますが、篠崎公園の高台化により避難場所となることは、もっとアピールしたほうがよいと思います。

◎既整備地区の大島小松川公園では、毎年地域主体の防災訓練を実施

事務局より、荒川の高規格堤防と同時にまちづくりを行った大島小松川公園において、地域主体で合同訓練を実施している事例を紹介させていただきました。

意見：防災の観点からいうと多重防災の対策（防潮堤という構造物、高台と避難場所の整備、行政からの情報収集や地域同士の避難等の防災体制の3つの組み合わせ）をやらないと命は守れないと言われています。防災にはハード面とソフト面がありますが、ソフト面の中で避難している方を受け止めるというコミュニケーションや話し合いをもう少し行ってほしいと思います。



(上写真)

大島小松川公園での合同訓練の様子

～第3回上篠崎一丁目北部地区まちづくり準備会～

■日時：平成28年2月23日（火） 午後7時から

■場所：篠崎第二小学校

■内容：土地区画整理事業について ほか

■参加者：まちづくり準備会の委員（11名）

委員については、まちづくりニュースNo.49でお知らせした通りです。

■傍聴人について（活動方針に詳細は記載しています）

- 1.原則として地区内権利者毎に代表者1名まで（その配偶者、子及び親権者を含む。）とする。
- 2.各委員につき1名の紹介を受けた者。
- 3.前項に掲げる者のほか、本会が特に認めた場合。



<連絡・問い合わせ先>

区画整理課 沿川整備係

篠崎地区まちづくり事務所

TEL 5664-2616

※お電話は平日午前8時30分から午後5時までの間にお願いします。

【URL】 <http://www.city.edogawa.tokyo.jp/kankyo/toshikeikaku/machidukurijoho/index.html>



第二回上篠崎一丁目北部地区まちづくり準備会 議事要旨

日時：平成 28 年 1 月 28 日（木）19：00～21：00

場所：篠崎第二小学校 会議室

出席委員：石井、市古、岩田、風間、金子、恒川、藤井、森田、渡邊（妙勝寺）、山木 ※敬称略

傍聴人：5 名

江戸川区土木部区画整理課：柿澤課長、鈴木係長、田村係長、西村、坂本、片岡、保坂

危機管理室防災危機管理課：高橋課長

日本測地設計株式会社：柳、熊田

区からの説明内容

●江戸川区の防災対策について

- ・江戸川区は 23 区の中で緑が多く、水で囲まれている。昭和 40 年代まで、水のくみ上げや天然ガスの採取の影響で地盤沈下をしたため、東部低地帯と呼ばれている。
- ・満潮時は、江戸川区全体の 7 割が海拔ゼロメートル地帯になり、想定される最大の高潮の時には、江戸川区の 95%が水没することになる。江戸川区内で水没しない場所は、埋め立てた葛西臨海公園や再開発と合わせて高規格堤防により盛土をした小松川の防災公園である。
- ・区内の多くが被災した昭和 24 年のキティ台風が来襲してから、60 年以上大きな台風はなく、体験した区民は少ない。
- ・首都直下地震は、30 年以内に 7 割の確率で来ると予想されている。
- ・大地震、洪水、高潮等が同時に起こる複合災害が発生すると、区内の約 95%が浸水するが、現時点での避難の考え方は、市川市と協定を結び、市川の国府台に避難者の受け入れが出来るようお願いをしている。また、23 区でも総合協定を結び、水害等の災害があった時には、江戸川区周辺の地盤よりも高い都心側の方へ避難することになっている。
- ・江戸川区には、葛西臨海公園と篠崎公園の大きな公園があり、災害時の大規模救出救助活動拠点となっている。
- ・発災後 72 時間は、倒壊家屋から助けられる可能性高く、その時間は警察・消防・自衛隊等は救出に全力を挙げるので、自らの命は自分で守る自助、近所で助け合う共助といった備えをソフト面ではお願いしている。
- ・ハード面としては、多くの事業を進めており、高規格堤防整備、河川構造物の耐震化事業の推進ということで、今出来ることを国、都と連携をして行っている。

○既整備地区の事例について（小松川地区）

- ・大島小松川公園は、荒川の高規格堤防と同時にまちづくりを行った地区に造られた公園である。
- ・毎年、7 月の第 1 日曜日に小松川・平井の連合町会により、地域が主体となった合同訓練を実施している。
- ・小中学生が消防団や消防員と協力して地震体験や消火体験をすることで、災害があった際には、地域の力で切り抜いていけるよう、防災意識の向上に努めている。

意見交換 <委員：(委)、事務局：(局)>

(委) 高潮とは何か。

(局) 台風などの低気圧により海面が上昇し、風に吹かれてやってくるものが高潮である。江戸川区をはじめ都内においては既往最大である伊勢湾台風時の高さ 5.1mの高潮まで対応できる対策を講じている。

(委) 洪水は、川から超えたものをいうのか。

(局) 洪水は降雨により、川が耐えることが出来なくなって水が溢れだすことをいう。

(委) 篠崎公園地区は区内でも地盤が高い場所で安全と聞いているが、なぜ安全な場所からスーパー堤防を行うのか。

(局) まちを人の体で例えると、江戸川区は、海拔ゼロメートル地帯が 7 割なので虚弱体質と言える。水害対策として数年に一度起きる大雨や洪水に耐えられる堤防を造り、治水機能を強化する対処療法がある。一方で、洪水による壊滅的な被害を重症化させない高規格堤防の整備は虚弱体質な江戸川区の体質改善であり、体質改善として高規格堤防の整備を出来るところからやるというのが江戸川区の考えである。

- (委) 篠崎公園の高台化により、水災害が集中するところに対して何か貢献できるのか。
- (局) 災害時の救助基地や大きなオープンスペースとなり、救助救出の活動拠点となる。
- (委) 東日本大震災の3日後、葛西を見に行ったら支柱の根本が見えるほどの穴が開いていた。東京湾台風の際、高潮2.5mの被害を受けており、次に発生した時の対策を伺いたい。また、浅間神社の盛土をしない擁壁の上の水処理はどうするのか。
- (局) 清新町の住宅地内で穴が開いたのは、浦安で起きた埋立地の液状化と同じである。穴が開いた箇所は細かい砂が周りに広がっていたので、埋め戻した経緯がある。高潮の被害については、現在、東京都は、津波の高さが3.7mと想定し、下水道の施設に水が入らないように、ポンプ場や下水処理場が止まらない対策の完成を平成28年度までに目指している。浅間神社の水処理については、排水側溝を置いて処理する計画である。
- (委) 盛土の耐震性について教えていただきたい。
- (局) 盛土をして造成する住宅地は、3tの地耐力を持つように施工されている。液状化の対策としても液状化が起きにくい粒径の多い建設発生土を盛土材として使用する計画である。
- (委) 建設残土は、不適切なものになるのか。
- (局) 適切かどうかは、物理的に検査をし、化学的にも汚染物質の有無を検査するので問題はない。
- (委) 東日本大震災の時、東京からの避難者は京葉道路を歩いており、消防団が千葉へ繋がる橋へさばいた経緯がある。人が集中すればオーバーフローをしてしまうので、その時に高台で一息できる場所があれば安心できる。
30年以内に大震災が発生するという状態は切羽詰まっている。この計画で多くの人々が助かると思う。浅間神社の木は伐採になる部分もあるかもしれないが、大きな見地として人の命が救えれば神様も喜ぶのではないかと思う。
- (委) 広域避難の検討状況はどうなっているのか。
- (局) 江東区、墨田区、足立区、葛飾区、江戸川区の五区がゼロメートル地帯であり、五区が連携して避難が出来るように調整をしている。また、東京都においても避難して人が溢れ、二次災害にならないように、東京都全体で広域的に避難できる計画を一步踏み出した状況である。
- (委) 移転するのは嫌ではないが、具体的なスケジュールを示してほしい。
- (委) 災害対策は納得した部分もあるが、年齢や引越しのこともあり、一番身近なことが心配である。
- (委) この地区は最悪な条件にならない限り、安全であり、もっと危険な場所をやるべきである。区民全体のために、この地区の権利者がなぜ負担しなければならないのか。
- (委) 防災の観点からいうと多重防災の対策を考えないと命は守れない。
防潮堤という構造物、高台と避難場所の整備、行政からの情報収集や地域同士の避難等の防災体制の3つの組み合わせをやらないと命は守れないと言われている。
防災にはハード面とソフト面があるが、ソフト面の中で避難している方をここで受け止めるというコミュニケーションや話し合いをもう少し丁寧に話し合ってもいいと思う。
- (委) スーパー堤防で堤防が強くなるのは周知されているが、篠崎公園の高台化により避難場所となることが皆に伝わっていないと思うので、もっとアピールしたほうがよい。
- (委) 治水というのは政治の基本であり、治水対策をやっていただきたいと思うが、江戸川区の治水対策を完成させるのに、どのくらいの時間がかかるのか。
- (局) 江戸川区の川周辺の造成については、まちづくりなどと合わせて高規格堤防を整備するため、完了時期は具体的に示すことが出来ない。
- (委) より多くの人々が「まちづくりに携わった」と誇りを持って話せるようになればと思う。
- (委) まちづくりは、皆で話し合っただけのものであり、先行買収や飛び地の区画整理は、まちこわしのイメージになってしまう。
篠崎公園地区をスーパー堤防にしても上流で切れたら被害を受ける。役所の近くや松島といった低いところを盛土すればよいと思う。

●その他

第三回上篠崎一丁目北部地区まちづくり準備会について

日時：篠崎第二小学校 2月23日(火) 19:00から